

園長先生が推薦する、楽しい絵本の世界

子どもたちは絵本が大好き。幼稚園でも、絵本は大活躍です。淀川区、東淀川区の私立幼稚園の園長先生が、好きな絵本、読んでほしい絵本をご紹介します。どうぞご家庭で絵本の世界をお楽しみください。

あっちゃん あがつく

たべもの あいうえお

みね よう 原案

さいとう のぶ 作

リーブル



軽快な音のリズムで読み進んでいくうちに、思わず声に出して読んでしまいます。ひらがなは濁音を含めて69音全てが登場し、その音に合わせた食べ物のイラストが描かれています。親子で一緒に読んだり、歌にしてみたり、ひらがなに興味を持ったり、読み方は自由自在です。イラストもコミカルで可愛く、ページ数は多いものの早く次が見たくなる絵本です。親子で新しい詞を考えたり、遊んだりすることも出来ます。見応えのある一冊に間違いありません。是非、読んでみて下さい。

うしろにいるのだあれ

うみのなかまたち

accototo

ふくだとしお

+あきこ 作・絵

幻冬舎



小さい子でもわかりやすく楽しめる絵本。うしろにいる動物をクイズのように答え、ページをめくるたび、目をキラキラさせながら

探し始める子が多い。最後のページで、生き物がみんな近くにいたことを知ると「わあー、いっぱいいる!」「くじら大きいね」など口々に嬉しそうな顔で答えていた。

他にもたくさんシリーズがあり、海だけでなく水辺、野原、サバンナ、南の島などに住む色々な動物に出会うことのできる絵本である。

えがないえほん

B・J・ノヴァク作

おおとも たけし訳

早川書房



この本には絵がありません。え? どういうこと? となります。絵はひとつもないのですが、とってもおもしろいんです! はじめは不思議そうにしていた子ども達も読み進めていくうちにだんだん笑いが止まらなくなり、「くるよ、くるよ…」と言いながら楽しんでいきます。「先生また読んで!」と子ども達からのリクエストが多い作品です。

最後に…

この本にはルールがあります。

「書かれている言葉は、全部声に出して読むこと」

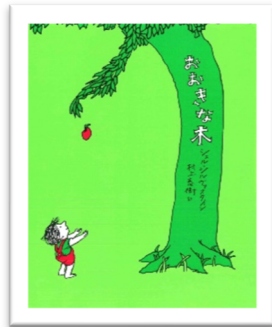
このルールは「なにがあっても絶対」です!

**おうさまが
かえってくる
100びょうまえ**
柏原佳世子 作
えほんの杜



おうさまのおでかけ中、おうさまのおへやでちらかし放題のけらい3人。あと100びょうでおうさまが帰ってくることを知りあわてるけらいと一緒に100びょうを数えながら子どもたちもハラハラ楽しめる作品。あわてふためくけらいたちがおもしろい!!

おおきな木
シェル・シルヴァ
スタイン 作・絵
村上春樹 訳
あすなろ書房



幼稚園の頃母によんでもらったこの絵本、今は自分のこどもにも読みきかせています。幼稚園の頃は何の事だろうと感情を理解できず、最後の言葉を不思議に思っていました。小学生、中学生、と読む時々で感じ方が異なる本だと思います。是非ご家庭で読んでみてください。

**おかしなおかしな
おかしのはなし**
さいとうしのぶ 作
リーブル



ショートケーキを意外な方法で分けて仲良く食べるアライグマの兄弟、おじぞうさんのお供えが気になるイノシシ、道に捨てられたガムにくっついて動けなくなったカメ・・・

おいしそうなお菓子と、楽しいけれど考えさせられる動物たちのお話が、次から次へと登場します。

おへそのあな
長谷川義史 作
BL出版



絵本の研修会で長谷川義史さんのことを知り、おじいちゃんの本でファンになった。

園児の母親が妊娠していた。赤ちゃんが生まれるのを楽しみにしていたので、絵本『おへそのあな』を読み聞かせた。すると「自分も赤ちゃんの時こうだったのかな?」「赤ちゃんは僕のことわかっているかな?」と声を上げた。そして、さらに心待ちにするようになった。

子どもも大人も命について考えさせられる素敵な絵本である。

**カラーモンスター
きもちはなにいろ?**
アナ・レナス 作
おおとも たけし 訳
永岡書店



手にとった時、モンスターの可愛さと、きもちは何にいろ?の題名に惹かれた。読むと一つ一つの気持ちが色で表現されていてわかりやすい。最後のページを見て園児が「ピンクはきっと温かい気持ちだね!」「好きって気持ちかも?」「優しい気持ちじゃないかな?」と話し始めた。この絵本は、ページをめくるごとに引き込まれる。そして、幼児も大人も自分の心の中の状態を自然に考え、気持ちの整理や表現をしやすくなる。

さかあがり

佐藤弘道 作
藤本ともひこ 絵
世界文化社



「鉄棒」イコール

「こわい」と身構えてしまう子どもが多いのではないのでしょうか？飛びつくことはできても、そこから逆さまになる恐怖！！「こわい！」という印象が染みつくと、そ〜っと鉄棒を避けてしまう様子も伺えます。この作品は、「体操のお兄さん」として一世を風靡した佐藤弘道さんが逆上がりのコツを楽しく描いてくれています。「できる」ことを目的にするのではなく、「鉄棒が好きになるように」という願いの通り、楽しいストーリー展開になっており、こざるに自分達の姿を重ね、練習を積み重ねて最後に逆上がりが出来たシーンでは「やった〜！」と拍手喝采でした。

3びきのこねこ

飯島敏子 原作
いしもとようこ
文・絵
ひかりのくに



この絵本は、捨てられた3びきのこねこたちが、のらいぬのおじさんから言われた「たべものとしあわせは じぶんで みつけなくっちゃ いけないよ！」という言葉思い出し、パン屋のおじさんと幸せに暮らすお話です。温かで優しい絵が印象的で、のらいぬのおじさんの言葉もすてきです。子どもたちに、自立することの大切さを、語りかけています。この絵本を読んで、子どもたちが、これからの人生において、自分らしい幸せを見つけ、楽しい

日々を過ごしてくれることを願っています。今、「主体性」が注目され、その重要性が再認識されています。この絵本は、子どもたちの「自主性」そして「主体性」を育む上でも、ふさわしいと思います。

せんたくかあちゃん

さとうわきこ 作
福音館書店



この絵本は、お子さん達の大好きな絵本で、何度でも「読んで」と、持ってきます。洗濯が大好きなかあちゃんは、何でも洗ってしまいます。人、動物、物、次々と洗濯していき、最後には雷まで洗ってしまいます。色々な物が、外に干される光景も楽しいですが、雷がたくさん落ちてくる場面も、驚きです。でも、かあちゃんは、物怖じもせず、まかせとき!!と洗ってしまいます。かあちゃんの明るさと、潔さ、そして子ども達の優しさが描かれている、とても楽しい絵本です。

だいすき ゐゅつぎゅつ

ゲイシャイトー
グリーン 文
ウォーカー 絵
福本 有美子 訳
岩崎書店



うさぎの親子が何気ない日常の出来事の中で、ママうさぎが子うさぎを「だいすき ゐゅつぎゅつ」と抱きしめます。朝ごはんの後に「ぎゅつ」、子うさぎは「うれしいな、もういっぺん」とママにおねだり。なんとも微笑ましい、愛情いっぱい、心温まる絵本です。私はこの絵本が大好きです。

てん

ピーター・
レイノルズ 作・絵
谷川俊太郎 訳
あすなろ書房



自分には素質が無いと決めつけていた主人公であったが、担任の先生の一言で、新たな世界が開けた。一度開けた世界は、どんどんと拡がりを見せていく。なにも難しいことではなかった。むしろ楽しさを感じている。

この本を通して、無いと思いついでいるのは主人公のみではないことに気づかされる。誰にでも、無から転じて生ずるキッカケが有ることを教えられた。

とんでもない

鈴木のりたけ 作
アリス館



ゆうゆうと海をおよぐイルカも、のんびり笹をたべるパンダも、本人にしかない悩みがある!! 他人の立場にんあって自分では見えない、知らない部分を想像する、大人でも難しいことを自然とユニークに教えてくれる作品。絵もおもしろい。

ほげちゃん

やぎたみこ 作
偕成社



ゆうちゃんに
おじさんからプレゼントしてもらったぬいぐるみの「ほげちゃん」。ゆうちゃんの成長をいつも隣で見守るほげちゃん。カバでもない、ネコでもない、何とも言えない愛嬌のある表情

が幼稚園の子ども達の心をグッと掴みます。誰もいなくなった家の中で、いきなり豹変するほげちゃんに子ども達もびっくりですが、でもなぜか憎めないほげちゃん。シリーズ化されているこの絵本にはいつも最後にほげちゃんの幸せそうな表情が描かれており、そこが子ども達から愛される理由なのかな?と感じます。園では手作りのほげちゃんが子ども達の成長を見守ってくれています。

ママのスマホになりたい

のぶみ 作
WAVE 出版



かんたろうくんの大好きなママは、時間があるとスマホを見てばかり。ママの気を引こうと拗ねてみたり、悪い言葉を使ったりしても、効果はありません。大きくなったらママのスマホになりたい。ママがスマホばかり見てるから・・・と幼稚園で泣いてしまったかんたろうくん。ぼくのまんまで、ママに見てほしいのに。

インスタ、ユーチューブ、時間のたつのを忘れてしまうスマホ。でも、お子さんからは、スマホに大好きなお母さんを取られてしまったと思われているかもしれません。大切な家族と一緒に過ごす時間、スマホどうしましょう。

りんごかもしれない

ヨシタケシンスケ 作
ブロンズ新社



“テーブルの上にリンゴがある” それだけで様々な発想や想像をめぐらせる主人公。“かもしれない”とかんがえることの楽しさを教えてくれる作品。